

○空き店舗を活用した優良事例 〈コワーキングスペース JIMBA (津別町)〉

■開店の経過

「コワーキングスペース JIMBA」は、オホーツク総合振興局管内の津別町にあるコワーキングスペースである。

千葉県船橋市で映像制作会社を営んでいた立川氏が津別町から広報用の映像制作依頼を受けた際に、「町内で新たな仕事を作ることができないか。」との話を町の担当者から受けたことが始まりである。

オホーツク、釧路、根室地域においては、映像制作、配信を行う事業者がいなかったことから、同町での開業の余地があると考え、地域おこし協力隊として移住し、町の広報映像の制作、町の情報発信を行うローカルテレビ局である「道東テレビ」を立ち上げた。

さらに隊員期間の終了を踏まえ、法人化する道東テレビの拠点づくりという目的と、町を訪れた人が継続的に関わりを持つ場を作り、さらには町内の空き店舗の有効活用とそこから生まれる相乗効果を目的に、町実施の「道東エリアリノベーション・プロジェクト In 津別」の「コワーキングスペース部門」に応募し、運営事業者に決定、平成 30 年 2 月に JIMBA を開業した。

※道東テレビは北海道主催の「北海道創業ビジネスグランプリ」において、「テレビ局×コワーキング×ホテル」をテーマとした創業計画を応募し、全道優秀賞を受賞した。



■空き店舗の活用

昭和 17 年に建築された製材会社の役員住宅を所有者から無償で譲渡を受け、「道東エリアリノベーション・プロジェクト In 津別」の関係者や町民の協力のもと、既存の建物の内装を活かしつつ、DIY による改装を行った。

改装費は町からの助成のほか、クラウドファンディングで調達した。



■店舗の特徴・強み

所々に改装前の姿を残している店内は趣が感じられ、DIY による暖かみのある内装となっている。

道東テレビの事務所及びスタジオが設置され、津別町の情報発信の拠点になっているほか、様々な情報が集まる場所でもあり、町内の観光案内所としての機能も有している。

また、立川氏の経験を活かした映像制作教室など、イベントも定期的に行われている。

店舗の 1 階にはシェアオフィスがあるほか

奥には飲食カウンターがあり、日中は幾島珈琲研究所がカフェを運営している。町内を含め近隣では数少ないモーニングの提供が行われていることから、町外からの来客も多い。

また、毎週金曜日の夜はシェアバー(ジンバー)として、町内の住民が週替わりでマスターを務め、盛況となっている。

2階はレンタルスペースとして、イベントや宴会の開催も可能。



■出店に伴う苦労

国内において先例が少なく、事業運営の見通しが見つからない部分はあった。

道東テレビとして、人気コンテンツをいかに作っていくか、また、JIMBAを町民が集える場所としていかに定着させるかを考えながら試行錯誤で運営を行ってきた。

■現在の営業状況

道東テレビでは、津別町以外の映像制作も行っており、事業を拡大中。

JIMBAには、テナントとしてまちづくり会社も入居しており、一体となって地域活性化に向けた活動をしている。また、同社は、本年4月にチーズ工房を開店する予定もある。

店舗は様々な機能を有しており、各種行事も行われていることから、月に延べ300人程度の町民が集まる場となっている。

また、JIMBAはオンラインサロンも運営しており、会員はSNS上の非公開グループに参加可能なほか、シェアオフィスを24時間年中無休で利用可能という特典もあり、好評となっている。

町内には空き店舗が多く点在しているが、店舗隣接の空き店舗に新たにカフェが出店する動きが出ており、周辺一帯の盛り上がりも見込まれる。



■今後の展開

本年3月に「道東エリアリノベーション・プロジェクト In 津別」の一環として、町内の空き店舗を活用した地域融合型のゲストハウス「nanmo-nanmo」が開業。

津別町は道東エリア全域で見ると中央部に位置し、観光の拠点になり得ることから、同町宿泊者の増加が見込まれる。JIMBAを宿泊客と地元の方々との交流の場とするなど、連携した取組を進めるとともに、まちづくり会社や町などとも一体となって地域の活性化を図っていく考えである。

なお、映像業界に身を置く立川氏は、地方でも十分なビジネスチャンスがあることを立証し、都市部集中ではない映像業界のモデルとしたい想いもあり、今後も新たな取組にチャレンジしようと考えている。

取材先

■コワーキングスペース JIMBA

網走郡津別町字幸町 12 番地

TEL : 090-4209-1722 (オーナー 立川 彰 氏【直通】)